

6月27日（金）

保幼小連携研究会開催

山口県乳幼児の育ちと学び支援センター主催による「保幼小連携研究会」が、阿武小学校で開催されました。山口県の各地から、小学校、保育園、幼稚園、認定こども園、関係機関等の



皆様にお越しいただき、50名を超える規模の大きな研修会となりました。この会では、昨年度1年間、みどり保育園で長期研修を行い、今年度1年を担当している吉岡先生が、算数科の授業を公開しました。遊びを通して学ぶ乳幼児期と、意図的な学びを始める小学校をつなぐ「架け橋期のカリキュラム」を作成し、それに沿って効果的な学びの接続ができるよう、研修を深めています。比較的連携がしやすい生活科での研究授業が一般的ですが、今回は、算数科で

の連携にチャレンジしました。やまぐち総合教育支援センターからお越しいただいた指導者の先生から、幼少期の遊びの中で、算数科での平行や図形をどう切り取ってみるかといった「感覚」が磨かれている。また、かくれんぼで10を数えるときの9という数字への思い入れ等、遊びの中の算数の要素という新たな視点に気づかせていただきました。子どもたちは、大勢の大人に囲まれ緊張していましたが、いろいろなものを活用して課題を解決しようとするいつも通りの姿で、頑張って学びに向かっていました。今後もみどり保育園との連携を深め、阿武町の子どもたちの健やかな育ちと学びを支援していきたいと思えます。



